

## 平成29年度 北九州市地方独立行政法人評価委員会（第3回）議事要旨

- 1 開催日時：平成29年7月13日（木） 15：30～17：00
- 2 開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A
- 3 議事内容
  - (1) 平成28年度業務の実績及び第2期中期目標期間に係る業務の実績について
    - ア. 大学側からの説明
    - イ. 質疑応答
  - まなびとESDステーションについて  
(委員) 来場者数、まなびと講座の受講者数・プロジェクト数が平成27年度より減っているが、要因は何か。  
(大学) 連携大学間における単位互換協定を7校で結んでいるが、登録者数は学生次第で変動してしまう。また、予算の都合上、事業の縮小を図ったため、その影響が出たと考える。  
(委員) 今後も市から継続要請があるとのことだが、今後はどのように進めていくのか。  
(大学) 高校生を対象に問題解決型のプロジェクト学習として、NPO法人「カタリバ」を活用するプログラムと、大学生を対象とした未来創造塾というプログラムなどの新たな事業を立ち上げていこうと考えている。「まなびと講座」については継続していく。地域実践プロジェクトについては各大学がそれぞれ持ち帰って続けていく形になる。全体としては縮小するが、その中で工夫しながら、市の助成を受けつつ、継続していきたい。
  - 学生の就職について  
(委員) 大学としては、なるべく市内で就職してほしいのか、逆に全国に出て北九州市の良さを広めてほしいのか、何かスタンスがあるか。  
(大学) 今年度からCOC+事業を始めており、市の希望もあって、なるべく市内就職率を高めたいということで活動をしているが、強制はできない。大学としては、市内の企業を学生に知ってもらい、マッチングを図るということで、結果として市内就職率が上がればよいというスタンスで取り組みを進めている。地元就職を希望する学生が約30%おり、現状、地元就職している学生が約20%なので、30%に近づけていくことを目標としている。COC+の事業は平成27年度から始まり、平成28年度も市内企業の紹介を学生に行ったり、地域の魅力を知ってもらうために「地域の文化と歴史」といった科目など開講した。これから、成果が現れてくると考えている。

○施設整備について

(委員) 建物の状況について、老朽化等はどうか。校舎の耐震工事は終わっているのか。

(大学) 耐用年数からいくと古くなっている建物は多くある。修繕計画を作成し、それに則って予算を取りながら進めている。校舎の耐震工事は終わっている。

○就職率について

(委員) 平成 28 年度の就職率が 98.8%と非常に高いが、他の大学と比べても高い数値なのか。

(大学) 全国平均も九州地区平均も 97.6%で、1.2 ポイント上回っている。全体として売り手市場ではあるが、キャリアセンターを中心に、非常にきめ細やかな支援を行っているのが、成果としてあらわれているのではないだろうか。

○ポートフォリオについて

(委員) ポートフォリオは地域創生学群にだけ導入されているが、他の学部での導入は考えていないのか。

(大学) 平成 26 年度に「大学教育再生加速プログラム」という文科省補助事業の採択を受け、そこから「北九大教育ポートフォリオシステム」を開発した。まず試行的に地域創生学群で取り組んでみて、どの程度効果的であるのか、教員の負担がどの程度あるのかなどを判断したい。学生が見るだけのポートフォリオでは意味がないので、教員がきちんと見て、指導に活かしていく。また、学生は次の目標を自ら考えるという動きが必要だが、現実にはどのようにまわしていくのか、実際に活用してみて、次のステップを考えていく方針である。

○まなびと JOB ステーションについて

(委員) 平成 28 年度から開設したとのことだが、活発に活動しているのか。課題は何かあるか。常時、開いているのか。

(大学) 非常に活発に活動している。学生と地元企業との出会いの場を活発にコーディネートしている。毎日ではなく、イベントの期間などに開けている。本学だけでなく、下関を含めた 13 大学で行っており、色々な企業とのマッチング、特に地元企業を知ってもらうための支援が大きな役割である。